

# 民潮新報號外

大正十二年  
十一月十日

大阪商船會社有志代表

## 水火夫長の決議

争議團に物資の供給

全國組合出張所長及び

社外船乗組員も亦後援を決議す

### 五萬三千の海員漸く動かんとす

郵船員の団体は物發以來既に四日間を経過せるが、形勢は依然として混沌、未だ解決の跡を尋見せざるものゝ如し。且下の所郵船争議は持久戦に入れるものゝ如く、相互に無謀謀策を怠りなきが今

四争議が、此種争議に於て稀れに見る秩序的行動と合理的要求とは、社会階級者の同情發露として

海員に與り、郵船今回の手當半減の舉に對し、盛んに非難攻撃するもの漸く多きを加へ来る状

勢も、就中盟休船員の大體は這般の機體に罹れる者にして、郵船が是等の船員手當までも半

減に對するは無謀も甚しく、罹災民を死地に突きやる大暴舉なりと輿論は一齊に其の非行を責め、

盟休船員に對し激勵的言辭を發して後援に各がならざるものゝ如きなり。而して昨九日濱田副長代理と郵

船員、船主兩團體との意見あり、其間小沢水事部長より約一時間半程懇話何事か畫策せる模様にて此

會に依りて争議解決を一步早からしむる機縁ともなるやも保し難し又互光商會内村太郎氏兩停者と

之起つあり、是等の事情を綜合推察すれば昨日九日の意見に依りて確かに解決の曙光に近づきたるもの

意あるが盟休船員の結束は意外に堅く彼等は今回の要求の貫徹せられざる限り、餓死

を賭しても盟休を繼續すべき決心にして、飽迄主張の貫徹を期しつゝあり。又火

阪商船會社乗組員有志代表として、水火夫長百餘名は九日夜某所に會合郵船争

議に對する態度を協議せるが結局若し「郵船の争議にして持久戦とならば、一

カ年二カ年位の間に、盟休船員に對し物資の供給を與へ其の全部を負擔

する」の決議をなし。直に之を海員組合に連座したるに依りこの有力なる後援者の出現

に依つて、盟休船員の氣勢は一層昂りたるものゝ如し。尙更に社外船乗組員は秘密裡に會合しこれ

を前記同様の決議をなし、盟休船員に對し、物資供給をなし後顧の憂なからしむる外各

組合代表者は手紙に電報に激勵的言辭を連ね海員組合に送り越す等、今や全國的に問題

擴大されつゝあり、また横濱門司、戸畑を始め名古屋清水港より代表者を送り本部

に後援を申込み來り、殊に大導寺小樽出張所長の如き物資を積載本日神戸港に

入港し來る等争議團に一段の活氣を添へつゝあり。而して今日まで平靜の態を以て傍觀しつゝありし

五萬三千餘の海員は事態重大なりとし同僚救済の爲め起たんとする形勢にあり若し彼等にして歐亞

をば、自己の生活費の全部を支出するを敢て辭せざるべく一致協力海上の暴帝たる郵船會社に向つて厲

言の聲に出づるは必然ならん、斯くては實に由々しく大問題となりて、國家の損失は數ふべからざる

に至るべく、而して盟休船員は今回を機として今日まで度けられたる無産階級者の救済開放を徹底的に

實現に要求せんとせざるものゝ如くなり。

編輯印刷 發行所 神戸市東山町一丁目十番屋敷 民潮新報社

本問題に関する直接関係船名

- |     |     |      |
|-----|-----|------|
| 六甲丸 | 博愛丸 | 日克丸  |
| 豐橋丸 | 博多丸 | 賢炭丸  |
| 香取丸 | りま丸 | たかあ丸 |
| 龍野丸 | 若狭丸 | 熊野丸  |
| 盛岡丸 | 筑波丸 | 若崎丸  |
| 山形丸 | 静岡丸 |      |
|     | 阿蘇丸 |      |

右乗組一同

日本郵船株式會社  
船舶屬員諸君